

○3 月 21 日の小規模噴火

3 月 21 日、1998 年 11 月 9 日の小噴火以来約 8 年ぶりに噴火した。噴火直後の噴煙の状況は天候不良のため気象庁の監視カメラ（山頂火口の南南東約 16km）では確認できなかったが、08 時には火口縁上 400m まで上がり南東に流れる灰色の噴煙を観測した。噴火にともなう火山性微動は 21 日 06 時 28 分頃に発生し、06 時 33 分まで振幅の大きな状態が継続した後、振幅が徐々に小さくなりながら 10 時 30 分まで続いた（図 3）。赤沼火口における噴火は振幅の大きな火山性微動が観測された頃に発生したと考えられる。また、北西側斜面の噴火は北海道の監視カメラ（山頂火口の西約 3.5km）により、06 時 37 分頃に始まったことが確認された。

噴火に伴う空振は観測されなかった。また、GPS による地殻変動観測では噴火前後で特段の変化はなかった。

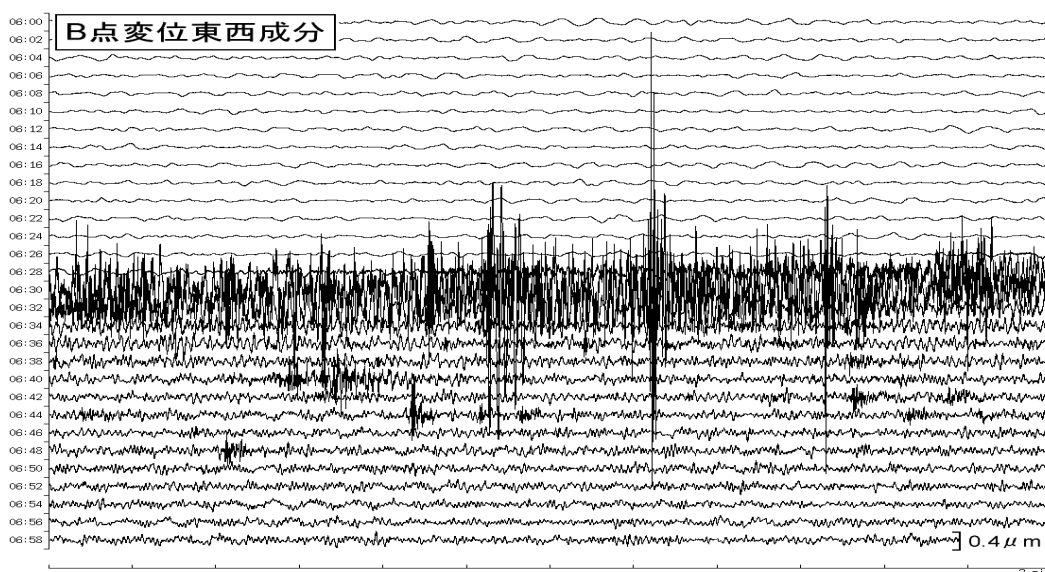


図 3 3 月 21 日 06 時 28 分に発生した火山性微動の波形記録（B 点東西成分変位波形）

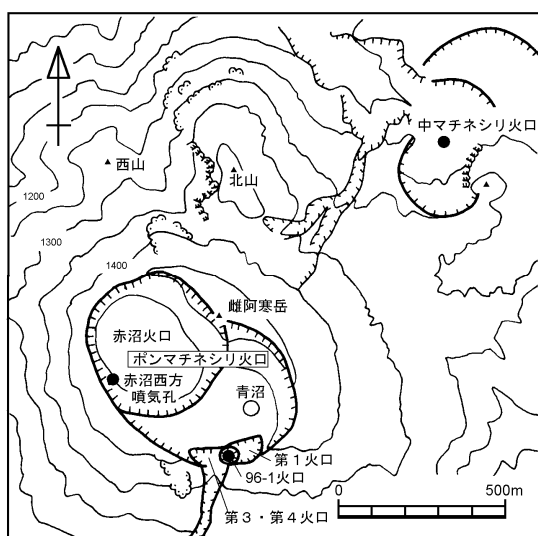


図 4 雌阿寒岳 山頂周辺図



図 5 北西側上空から撮影した雌阿寒岳山頂付近（3 月 22 日 撮影）赤沼火口と新たに形成された山頂北西側斜面の噴気孔から白色の噴煙が立ち上り東へ流れていた。

○噴煙活動

赤沼 06 火口群及び北西斜面 06 噴気孔列では、噴火直後から数週間は白色の噴煙が火口縁上おおむね 300～400m で経過していたが、その後はおおむね 100～200m で経過しており、やや低下傾向が認められる。

96-1 火口の噴煙活動は地震活動の活発化及び噴火前後において特に変化はなく、噴煙高度は概ね 100m 以下で経過した。

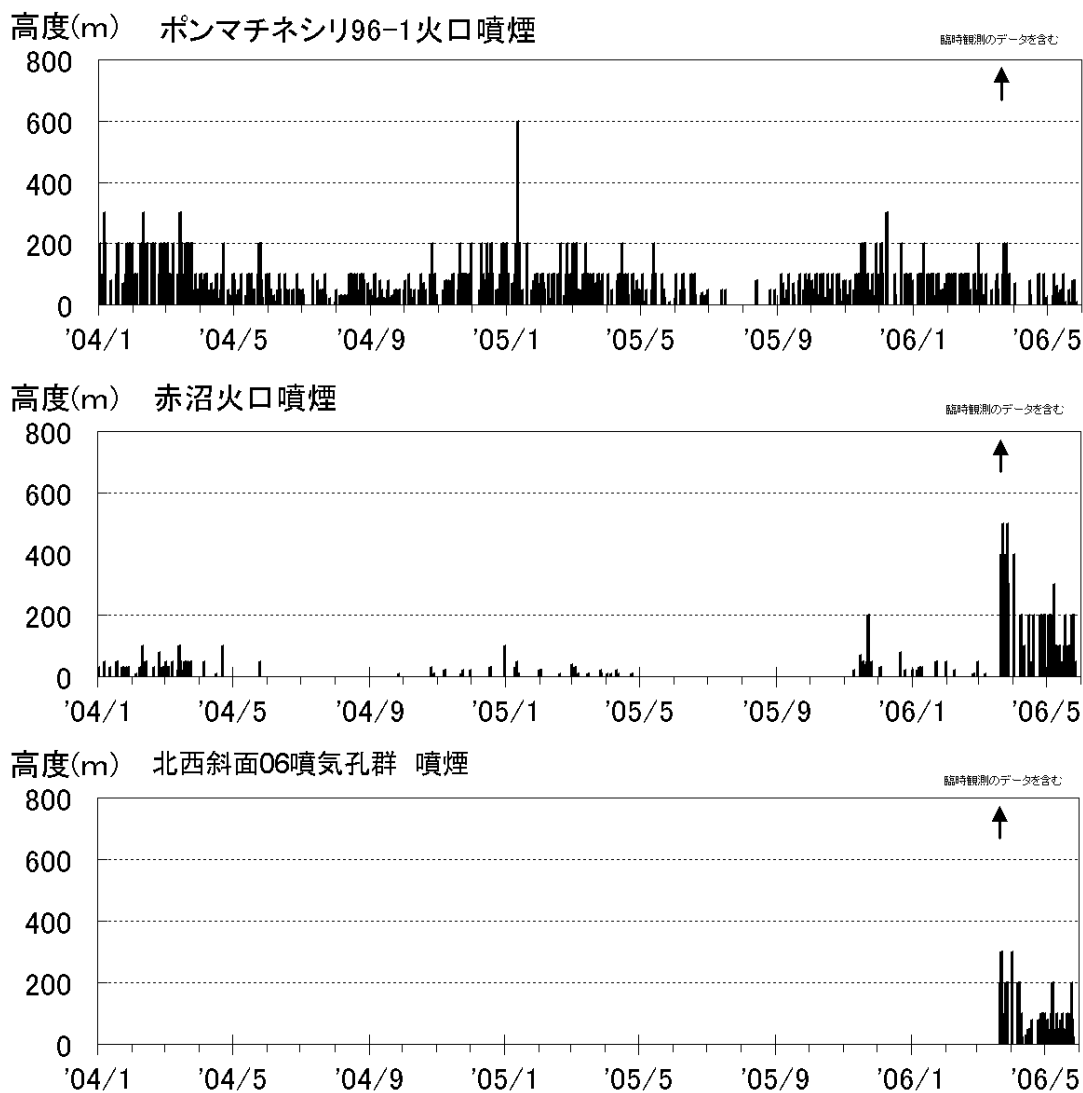


図 18 最近の噴煙の状況（2004 年 1 月～2006 年 5 月 31 日） ↑印は噴火

○地震活動

火山性地震は2月18～19日に多発した後、3月11日～12日に再び多発した（3月11日637回、12日135回）。その後も地震回数はやや多い状態が続き、3月19日には振幅の小さな火山性微動が観測された。2月18日～19日の震源は過去の震源領域から外れたポンマチネシリ火口直下の海面下1km 付近に集中し、3月11～12 日の地震多発にかけて震源がより浅くなる傾向がみられた。

3月21日06時28分頃に振幅の大きな火山性微動が観測され、振幅が徐々に小さくなりながら同日10時30分頃まで続いた。この微動の発生にともない小規模な噴火が発生した。

噴火後、地震回数は3月23日まで1日あたり20～70回程度とやや多い状態が続いたが、24日以降は1日あたり概ね10回以下で推移し、震源のほとんどは海面付近のやや浅いところに分布した。その後、5月9日に規模の小さい火山性微動が発生し、10日にかけて地震が一時多発した（5月9日453回、10日320回）ほかは、地震活動は低調な状態で経過している。

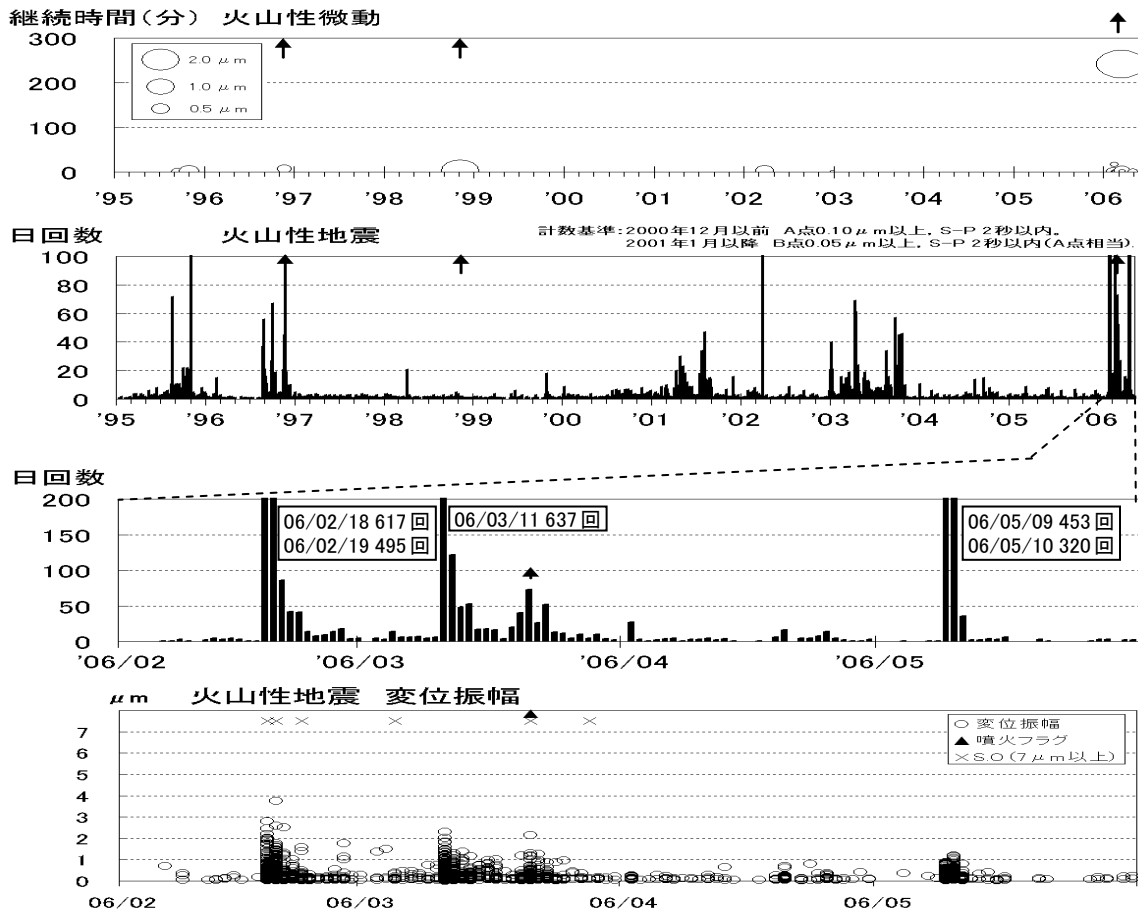


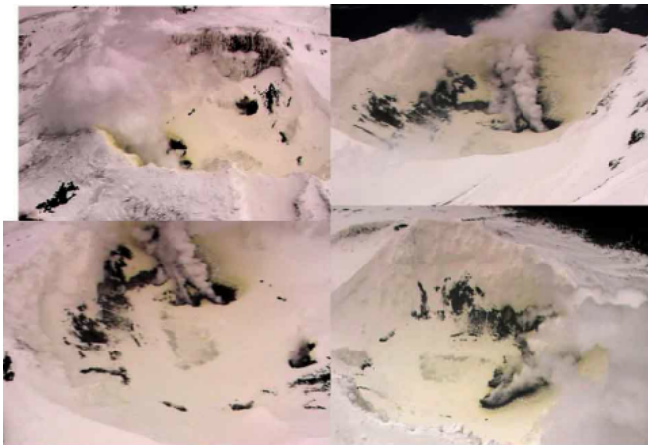
図 19 最近の地震活動経過図（1996年1月1日～2006年5月31日） ↑印は噴火

- ・ 地震活動は2003年11月以降静穏に経過していたが、2006年2月18～19日および3月11～12日にかけて地震が多発しやや活発な状態になった。また、地震の増加した2月18～20日にかけて振幅の小さな火山性微動が5回観測された。
- ・ 3月21日06時28分頃から10時30分頃にかけて振幅の大きな微動が発生し、小規模な噴火が発生した。
- ・ 5月9日に規模の小さい火山性微動が発生し、10日にかけて地震回数が一時多発した（5月9日および10日の地震回数は暫定値）

雌阿寒岳

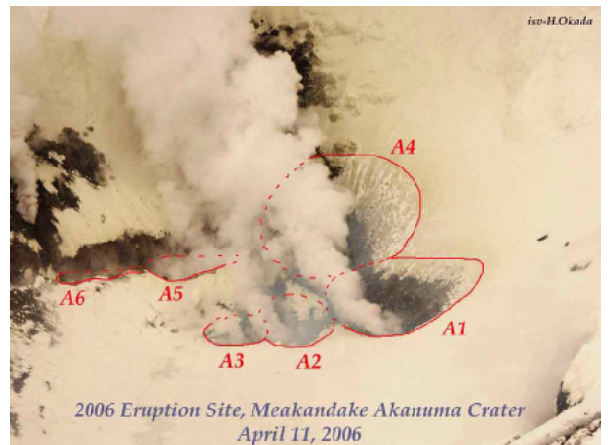
○ 火口および噴気孔の位置について

2006年4月11日道庁防災ヘリコプターからの観察にもとづき、赤沼内部の火口群および外側斜面の噴気孔群の位置を確認することができた。



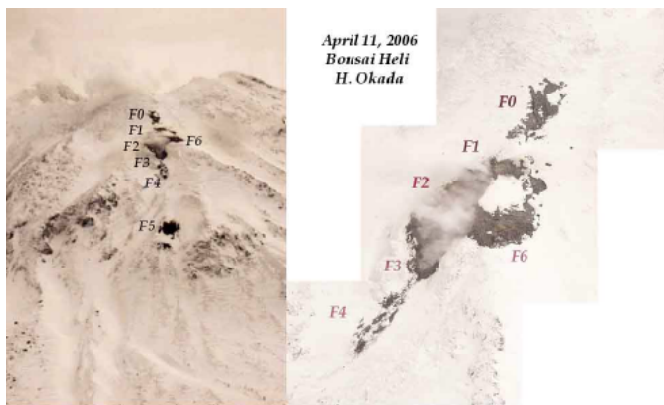
April 11, 2006 Bonsai Heli, H. Okada

図1 上空から見た赤沼火口の様子



2006 Eruption Site, Meakandake Akazuma Crater April 11, 2006

図2 2006年3月21日の噴火で開いたと思われる赤沼北西部の火口群



April 11, 2006 Bonsai Heli H. Okada

雌阿寒岳、外斜面噴気列

図3 赤沼火口の外側に形成された噴気孔列

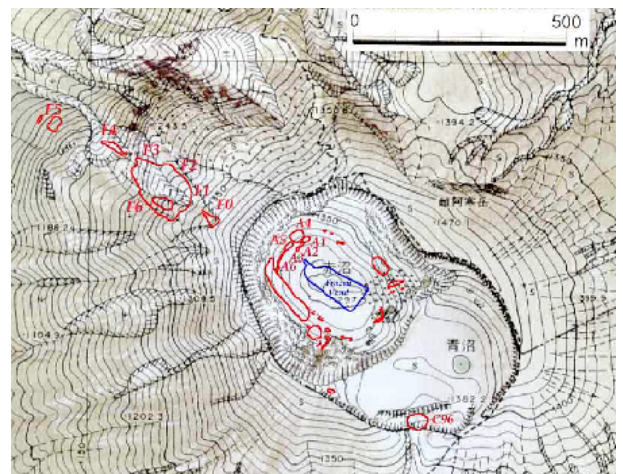


図4 火口および噴気孔の地図上での位置

(岡田)
雌阿寒岳

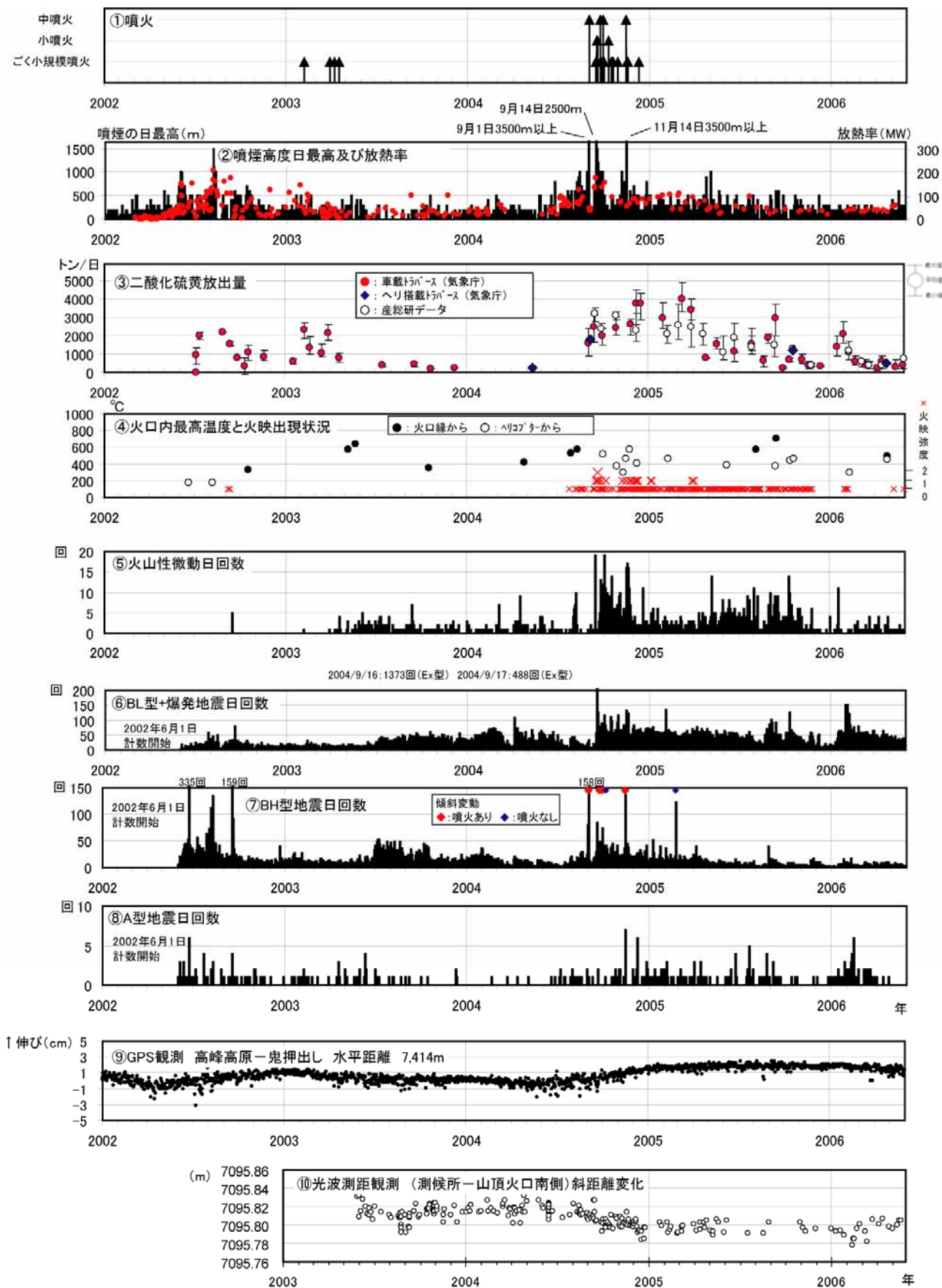


図 1 浅間山 最近の火山活動経過図(2002年1月1日~2006年5月31日)
の二酸化硫黄放出量グラフには産業技術総合研究所のデータも含まれている

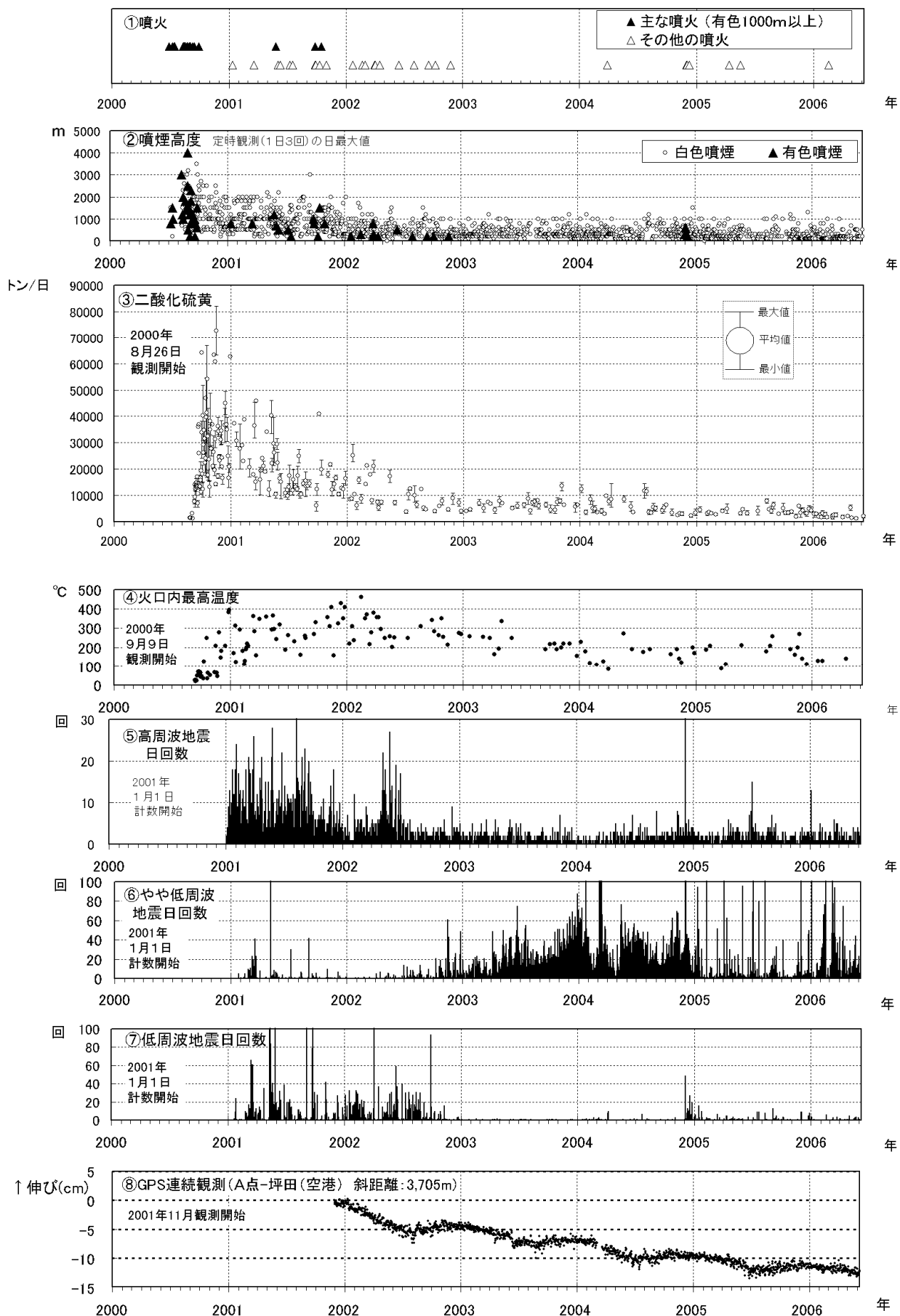
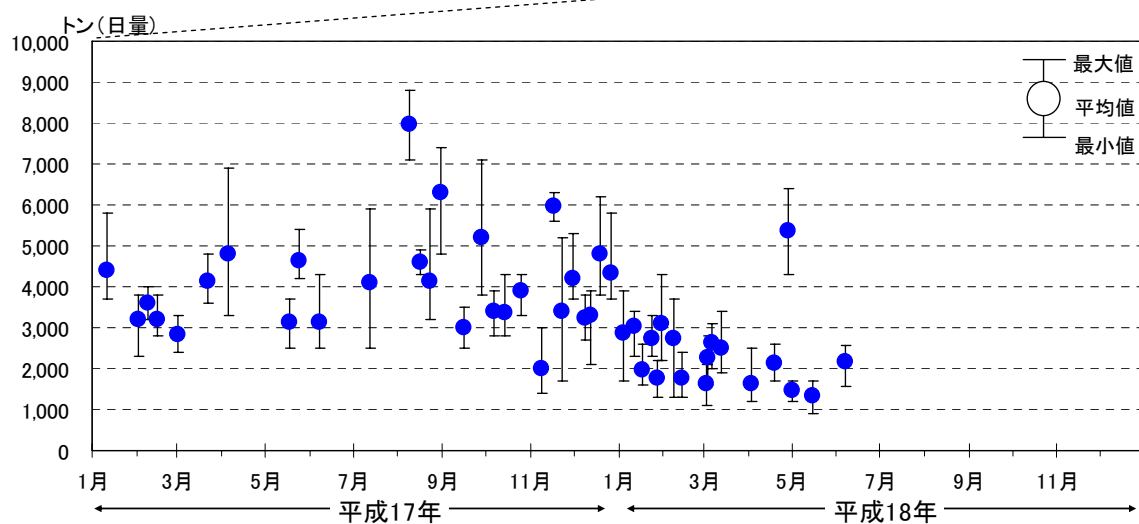
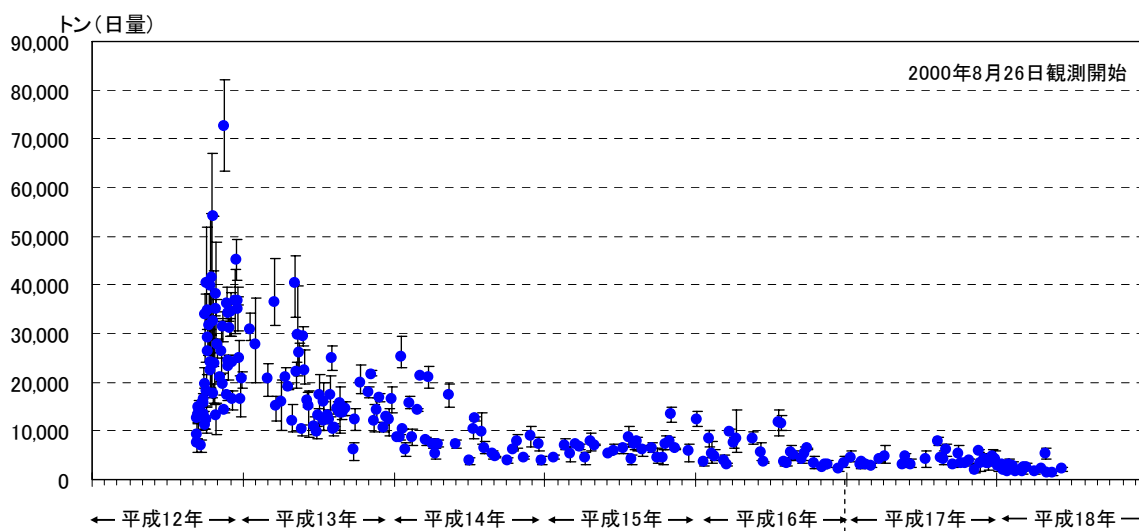


図 1 三宅島 火山活動経過図 (2000年1月1日~2006年6月7日) 次頁に注釈あり



気象庁 三宅島 二酸化硫黄放出量 (2000年～2006年)